

## 平成 30 年度第 1 回伏見区基本計画推進区民会議 会議録

日時 平成 30 年 5 月 31 日

午前 10 時開会 午後 11 時 39 分閉会

場所 伏見区役所 4 階中会議室

### 次 第

#### 1 開会

区長あいさつ

馬屋原区長から開会あいさつを行った。

- ・ 区民会議委員の皆様におかれては、各界、各層でまちづくりのリーダーとして様々な分野とお立場でご尽力いただいております、また伏見区政の推進にご協力いただきお礼申し上げます。
- ・ 本会議は、平成 23 年に策定した伏見区基本計画を着実に進めていくため、区民の皆様、事業者、関係機関の皆様とともに進捗管理を点検し、意見を述べていただく区の議会のような重要な場である。
- ・ 基本計画を策定し、8 年目を迎える今年度は、明治維新 150 周年、市民の手で市長を選出し、市役所を開庁した自治 120 年の節目の年でもある。
- ・ 伏見においても鳥羽伏見の戦いの戦禍の中から復興が始まり、先人たちの「自分のまちは自分でつくる。」といった「じぶんごと」の精神でまちづくりを進めてきた知恵や行動を学び活かして、残る計画期間ラスト 3 年のスタートダッシュを着実なものになるよう進めていく決意である。
- ・ 文化庁が全面移転する。その記念事業として地域の多くの方々のご理解、ご協力を得て昨年、京都芸術花火大会が開催され、伏見のまちが盛り上がった。
- ・ まちづくりの一丁目一番地である安心安全はもちろん、健康、福祉、子育て、教育、地域観光、経済などあらゆる分野で文化の視点で活性化させていきたい。
- ・ 深草の山本区長、醍醐の三宅区長とともに伏見に住んでよかった、伏見で仕事をしてよかった、訪れてよかったと実感できるまちづくりへ全力で取り組んでまいりたい。

座長、副座長の指名

「京都市伏見区基本計画推進区民会議開催要綱」第 4 条第 1 項の規定により、座長に橋爪紳也委員、副座長に村井信夫委員を指名した。

委員紹介

橋爪座長から順に各委員の自己紹介を行った。

座長あいさつ

議題の審議に先立ち、橋爪座長からあいさつを行った。

- ・ 引き続き、座長を務めさせていただく。文化庁の京都移転に伴い、文化芸術振興に関する法律の考え方が、もっと文化財を活用しよう、文化財を市民や観光振興に活かしていこうという方向性変わった。
- ・ 昨日の京都芸術花火大会 2018 では、私が住んでいる西京区でも音が聞こえ、驚

いたという声も聞こえたりした。24,000人の方が来場され、10,000発の花火が上がり、華々しいスタートを切れたのではないかと。

- ・ 大阪府の高石市のアドバイザーも務めており、6月に花火大会を立ち上げ恒例となった。「関西で一番早い」と打ち出している。今回の淀の花火大会は、高石市を抜いて「関西で一番早い花火大会」になるのではないかと。次年度以降も継続できれば良い。
- ・ 騒音に関しては、近隣住民の方々の理解もあるかと思うが、淀競馬場の利活用を期待している。
- ・ また、淀川の舟運が注目されている。昨年から枚方―大阪間で月1回程度遊覧船が出るようになった。河川の調整が必要かと思うが、京阪電鉄系の上水バスが枚方―大阪間をつないでいるので、連携して新しい観光ルートができれば良い。
- ・ 中書島の再開発もある。駅は多いが、玄関口がわからないとの声を聞くこともあり、港と駅が変わることで、伏見への入り口が変わっていくことが期待できる。
- ・ 伏見区役所が、伏見「文化・観光の語り部創生」事業を立ち上げる。ボランティアガイドを支援する事業であるが、市民と観光客の関係性は世界中で注目されている。観光客が多くなるほど住民との利害が一致しないことがある。オーバーツーリズムに対して、地域の方がどのように対応しているのか注目されている。住んでよし、訪れてよしとなるよう素晴らしい地域を使いこなす状況づくりが大事である。
- ・ 基本計画を策定してから観光等も含めて状況が大きく変わっている。委員の皆様には策定期間残り3年の進捗をご確認いただき、様々なお立場からご意見をいただきたい。また、今年度から委員となる方は、これまでになかった視点やご意見をいただき、自由闊達に議論できればと考えている。

## 2 議題

### (1) 平成30年度伏見区運営方針について

#### ア 三所共同事業【資料1,2】

伏見区役所、深草支所、醍醐支所の三所共同で行う事業概要について、事務局（川本企画課長）から説明を行った。

<質疑なし>

#### イ 区役所・支所の主な取組について（新規・充実事業等）【資料3】

伏見区役所の主な取組について、事務局（川本企画課長）から説明を行った。

<質疑>

加藤委員

- ・ 意見としてお聞きいただきたい。
- ・ 観光の面で商店街の活性化やまちが元気になるといったそのあたりの具体化に向け、戦略をどうするのかという視点が必要になってくる。
- ・ 健康長寿の取組では、健康講座などの“場”に出てこられない方にどうアプローチしていくかということが重要である。
- ・ 子育ての支援の取組では、子どもの貧困の問題は親の貧困の問題。収入が少ないといったこと以外に様々な問題を抱えている。寄り添い型の支援が必要であるし、昔、女性会で「里ばあちゃん」という関わりをされていたように、何

かアイデアが必要かなと思う。

- ・ 向島の取組には私も参加している。非常に力強く思ったのは、まちづくりビジョン推進会議とは別に集合住宅の棟ごとに、住民同士でタウンミーティングを実施したいという意見が住民からあり、大変心強く感じた。

#### 高橋委員

- ・ 伏見区の取組で観光が1番に取り上げられ、また、JR西日本とのタイアップ事業について説明をいただいた。ちょうど先日の読売テレビで伏見の十石船が運航している様子が放映されていた。十年前に観光協会さんなどが植樹をされたアジサイの花などが咲いているのを見ながら船が航行して風情があった。ただ、川の水を…、今以上にきれいにすることはできないものかと思った。
- ・ 昔は川ざらいなどをされていたかと思う。ここでお話することではないかもしれないが、観光という面でお越しになる方への気配りという点で、もう少し配慮して頂ければと思った。

#### 馬屋原区長

- ・ 伏見は港のまちであり、改めてその歴史や文化を見直している中、京都府の「地域主導型公共事業」として採択され、昨年からはじめ事業者、行政が一体になって、宇治川派流を整備していこうということで、財源を確保していただいて宇治川派流の河床掘削など浚渫を3年計画で実施しているところである。
- ・ (府のほか、NPO、地域を含めた) オール伏見で取り組んでいるところであり、もうしばらくお待ちいただければと思う。
- ・ この他、京阪ホールディングスが中書島の活性化に向けた計画について、インタビューで言及されていた。いよいよこの地域も変わっていくのかなと大きな期待を持って注目している。

#### 馬場委員

- ・ 今年は明治維新150周年だが、伏見力を活かしたまちづくりということ、ちょうど来年が伏見市政の発足から90周年になる。何か区役所の方でイベントとか考えておられることがあれば、教えていただきたい。

#### 事務局(川本企画課長)

- ・ 伏見力を活かしたまちづくりということで、今おっしゃった周年事業というのも一つの考え方であると思う。
- ・ その一方、今年の新規事業となる「伏見語り部」のように地域の方にガイドをしていただくことで、伏見ならではの魅力を発信するというのも、伏見力を活かしたまちづくりに繋がるものである。継続的な取組の地道な積み重ねが大切になるので、引き続き、地元の皆様のお力を頂きながら、伏見力を活かしたまちづくりに取り組んでまいりたい。

続いて、深草支所の主な取組について、資料4に基づき、事務局（加藤まちづくり推進課長、長谷川大岩街道周辺地域環境整備課長）から説明を行った。

<質疑>

橋爪座長

- ・ さきほどご意見のあった伏見市の90周年、その先の伏見区90周年について、事務局からお話があればお願いします。

事務局（田中地域力推進室長）

- ・ 伏見市が京都市に編入され伏見区が誕生したのが、1931年、昭和6年で、右京区と同じ年である。2011年の平成23年には伏見区発足の80周年記念を実施した。伏見市でみると来年90周年になるが、伏見区としては前回、2011年の平成23年に区発足80周年記念を実施しているので、次回は3年後の平成33年、つまり2021年に90周年ということになる。

橋爪座長

- ・ 2年間だけ存在した伏見市の90周年は来年だが、区役所としては2021年が90周年なのでそのタイミングでというお考えである。
- ・ ただ、区民の方が独自に伏見市の90周年を盛り上げるということはあるのもよいと思う。

馬屋原区長

- ・ 橋爪座長がおっしゃるように1929年の5月に伏見市が誕生。その後、昭和6年、1931年に京都市と合併して、現在の伏見区になったという歴史がある。
- ・ 当時の伏見市のエリアは限定されており、伏見区役所としての周年の基準は2021年となると考える。
- ・ 例えば「ふしみをさかなにぎつくばらん」などの取組と連携するような形で検討していければと思う。

橋爪座長

- ・ 続いて、深草支所の取組について、何かご意見等があれば。
- ・ 深草の方では伏見稻荷に観光客の方が来訪しすぎて、冒頭のあいさつで申し上げたような「オーバーツーリズム」の問題が発生。地域と観光客との共生を図っていくのが重要なテーマになってくる。
- ・ 大岩街道周辺の件では前回のこの会議で話題になったので、本日は詳しく御報告をいただいた。市街化調整区域で地区計画というものなかなかユニークな取組。ご意見ご質問がないようなので、吉兆君のPRをお願いします。

事務局（加藤まちづくり推進課長）

- ・ 深草うずらの吉兆君については、見た目がうずらにみえないので、「なんでうずら？」というご質問をよく頂戴する。
- ・ 平安時代の昔から深草には、うずらがたくさん生息していたことにちなみ

製作。お子様を中心に人気があり、今年度はゆるキャラグランプリにもエントリーしているのですが、また人気投票でのご協力をよろしくお願いする。

続いて、醍醐支所の主な取組について、資料5に基づき、事務局（水谷総務防災課長）から説明を行った。

<質疑なし>

## (2) 伏見区基本計画の進捗状況について【資料6】

伏見区役所の進捗状況について、事務局（川本企画課長）から説明を行った。

<質疑>

岩井委員

- ・ 醍醐のコミュニティバスが16年目を迎え、累計の利用者も750万人を突破した。バスが老朽化してきたので、新しい車両を4台発注する。
- ・ ただ、利用者のうち、8割の高齢者が敬老乗車証の利用であり、利用者は多いが採算面では利益が出ず厳しい状況にある。当初から村井会長が地元企業への協力を呼び掛け、約45社の企業から協賛をいただき、その協賛金で運営している。
- ・ 他の地域からも視察に来られるが、どこもコミュニティバスの運営は厳しいと聞いている。醍醐コミバスも同様に、バスの車両更新に1台1,800万円以上もの費用がかかるなど、厳しい財政状況である。京都市の健康長寿の部署とも財政支援の相談をしているが、難しい。
- ・ 本来、醍醐地域には市バスが走っていたが、醍醐に地下鉄がきたとたんに市バス路線が撤廃された中で、地域の足を守ろうと醍醐コミバスを運営してきた。
- ・ また、春の桜の時期には、地域住民による利用促進を実施しており、約10日間で約160人ものスタッフが活動してくれた。地域を挙げて観光振興や公共交通の維持に向けて取り組んでいるところであり、行政としても引き続き、支援・応援をお願いする。
- ・ 引き続き、村井会長を先頭に累計利用者1,000万人を目指して、頑張っていきたい。
- ・ この他、小栗栖宮山学区では、小学生の「学び遊び食堂」に取り組んでいるが、子どもたちの貧困の問題や学習支援などの問題は、対象となる子どもへ声をかける方法が難しい。色々な問題があるが、小学校等と連携しながら、引き続き取組を進めていきたい。

馬屋原区長

- ・ コミュニティバスの取組はまさに地域の絆をつなぐ、地域の足を守るため、自主的に取り組まれているものであり、敬意を表したい。
- ・ いろいろ課題はあるが我々も応援させていただきたいと思っている。

村瀬委員

- ・ 資料の中で、地下鉄5万人増客の話があったが、地域から地下鉄の駅に行こうにもバスがない。下鳥羽からは22系統が走っているが、昼間は1時間

に2本、朝夕でも4本程度しかない。19系統は走っていない時間帯もある。

- ・ 区役所などの会議に出席する際には、極力公共交通機関を利用しようと思うが、便数が少なく利用できる機会の制約が大きい。相談しても「利用者が少ないので増便できない。」といわれる。ただ、「便数が少ないから利用者が増えない。」というのが地元の思いであり、いたちごっこが続いている。
- ・ 5万人増客達成といわれても、正直なんともいえない。(交通が不便な地域の対策を)なんとかしていただきたい。

#### 馬屋原区長

- ・ 5万人増客達成をもって、従来からの地域の課題が解決したとは思っていない。
- ・ 市バスなどの公共交通機関については、毎年各学区から色々ご要望をお聞きしている。すぐに解決できるものではないが、地道に頑張ってもらいたい。

#### 橋爪座長

- ・ 伏見の東西の公共交通が弱いというのは以前からの課題である。強化するべきと言いつけるしかないのかなとは思いますが、行政も前向きに考えていただければと思う。

#### 橋爪座長

- ・ 時間が押しているので、各施設からの資料のご紹介について、1分以内でお願いします。

<伏見いきいき市民活動センター、醍醐いきいき市民活動センター、京エコー  
ジーセンターから配布資料について説明>

### 3 閉会

村井副座長から閉会のあいさつを行った。

#### 村井副座長

- ・ 皆様ご苦労さまです。伏見の基本計画についてはあと3年ということで、今日もお話があったが色々課題がある。
- ・ 皆様には、子どもからお年寄りまで「伏見に住んでよかった」というまちづくりに向け頑張ってもらっている。醍醐コミュニティバスの話が出たが、高齢社会になって、先日も90歳の女性の方が運転して事故が起きたようにいろんな問題がある。橋爪先生に来ていただいて、基本計画を進めているが、ちょっと間口が広すぎて難しいという感じがする。
- ・ そういった意味では小委員会の設置等や、今日のように集まる時には課題を持ち寄って話をするということではなかったら、漠然としたまま会議が終わってしまうような懸念がある。
- ・ 行政に頼るということではなく、我々自らやっていくという立場で、本日は皆様に集まっていたので、橋爪先生の色々なご経験を活かして、3区長と橋爪先生で、今後どういうあり方がよいか話をしていただければ幸いかと思う。どうぞよろしくをお願いします。ありがとうございました。